

あと少しの勇気があれば

浜松市立広沢小学校 五年

相曾 羽織

本屋さんに行った時、どうしても言えなかった一言があります。それは、

「私が代わりに本を読みましようか。」という一言です。

この前、私が本屋さんで本を見ていた時のことです。ふと、キッズスペースにすわっている男の子に気づきました。よく見ていると、お母さんはその男の子に、何か注意していました。

「迷わくでしょ。こっちの本をママが読んであげるから、お友達のおまをしないで。」

男の子の横の方では、小さい女の子がお母さんに絵本を読んでもらっていました。男の子は、自分も聞きたいのか、女の子をおしのけて聞きにっていました。男の子

のお母さんは、それに気づいて、急いで同じようなキャラクターの絵本を探して、読み聞かせを始めたのです。でも、その時でした。お母さんのせいでおんぶされていた赤ちゃんが、泣きだしたのです。お母さんは、仕方なく読み聞かせをやめて立ち上がり、赤ちゃんをあやしていました。

ほんの五分間くらいの出来事でしたが、それを見ていた私は、ずっと心がゆれて、どきどきしていました。私はよく親せきの小さな子に読み聞かせをしています。いつもおんぶくんは、とても楽しそうに聞いてくれています。この男の子も、親せきの子と同じ二、三才くらいに見えました。読み聞かせをしてあげたら、きつと喜んでくれるだろうな。そんなことを考えてる間も、お母さんは赤ちゃんが泣きやむのを待って、また男の子に本を読んであげようと思っていました。

どうしよう。「私が代わりに読みましようか。」って言うてみようかな。でも知らない人だし、男の子がいやだって言ったらシヨックだな。お母さんにも、変な子だな

てびっくりされちゃうかな。短い間に、いろいろな考えが頭の中をぐるぐる回りました。

人に親切にするって、とてもむずかしいことです。まず、ことわられて自分がぎずつくのがこわいし、相手が本当にそうしてもらいたいのか、分りにくいからです。

今回、私は本屋さんに行ったこの小さな男の子に、けっきょく声をかけてあげることができませんでした。いつも、いとこのお姉さんが小さな子どもを三人連れて、大変そうにしているのを見ているので、読み聞かせをしてあげたい気持ちはすごくあったのに。

「親切にする」には、思いやりや相手の気持ち想像することも大切だけど、とても勇気がいるということが分かりました。

もし、またあの本屋さんに行った男の子に出会ったら、今度こそきつと言えそうな気がします。

「いっしょに本を読もう！」って。

勇氣

浜松市立有玉小学校 五年

菊池 優利菜



私は、一年生から歯のきょう正を始め、四年生からはブラケットをつけています。歯科のお姉さんは、あまり目立たない白やクリーム色をすすめてくれました。でも、私はピンクが大好きなので、ピンクにしました。好きな色で嬉しかったのに、鏡を見たら想像とちがって、ショッキングピンクが目立ってすごくいやでした。

次の日、学校で友達にびっくりされました。「ケチャップがついてるよ。」
「歯に口べがついてるよ。」
と言われて、はずかしかったです。でも、「ピンクでかわいい。」

と言ってくれる友達もいて、すごく嬉しかったです。また、担任の先生が連絡帳に「私に、『ゆりなさん、口から血が出る。』と心配して、こっそり言いに来てくれた子

もいましたよ。」と書いてくださっていた
そうで、母が、

「優しいお友達だね、いいクラスだね。」

と、とても嬉しそうでした。

友達もきょう正をしていて、

「しゃべり方が変、はっきり聞こえない。」

「しゃべるとつばがとぶ。」

と、いやなことを言われていました。私は、

「大丈夫だよ、気にすることないよ。私も

うまくしゃべれなかったよ。私がその

子から守るから。」

と、その友達に声をかけました。

「ありがとう。ぼくだけ変かと思ってたか

らよかった。」

と、少し嬉しそうに言ってくれました。私

もきょう正をしているから、その友達のつ

らい気持ちがあつて、良かったと思いま

した。

そして、その友達がまたいやなことを言

われていたので、

「きょう正すると、どうしてもそうなるん

だよ。だから、友達にかわいそうなの

と、言うのをやめて。」

と勇氣を出して言いました。一回ではやめ
てくれなかったけど、そのうち、やっとい
やなことを言わなくなりました。友達は安
心したみたいですが、私も良かったなと思
いました。

私のことを心配してくれて、私や先生に
言ってくれたのは、とてもありがたく、優
しいことだなと思いました。人の気持ちを
考えたり、その人の立場に立って考えると、
人に親切にできるんだなと思いました。人
に優しくされるのも嬉しい気持ちになりま
すが、人に優しくするのは、もっと嬉しい
気持ちになれた気がしました。少し勇氣が
必要な時もありますが、私も周りの人に親
切にしていきたいと思えます。



必要としている人へ

焼津市立小川小学校 六年

齋藤 颯太

「颯太の杖は良いねえ。」

お父さんとお母さんが、うらやましそうにこちらを見ている。今日は山梨県の西沢溪谷に来た。天気も良く、陽気な日だ。この右手に持っている木の棒は、さつき沢を登る中で落ちていた棒を拾ったものだ。拾ってみるとぼくの背丈にもびったりで、手ざわりも良く、とても丈夫なので杖として使うことにした。お父さんとお母さんも、ぼくをマネして木の棒を拾ったが、短すぎたり、もろかったりして、中々良いものが見つからなかった。なので、ぼくは、絶対にこの杖は手放さないぞ。と決め、山を登り続けた。

山を登り始めてから数時間が経ち、だんだん道の傾斜が激しくなってきた。この杖を以ってしてもきつい。そんな中顔を上げると、息を切らした一人のお年よりがいた。

辛そうな表情のおばあさんを見て、自分の杖をゆずってあげようか悩んだ。だが、こんな良い杖はすぐには見つからない。いつのまにか、辺りの地面にはコケが生えており、暗くジメジメした場所になっていた。もう一度、おばあさんを見た。足がおぼつかなくて、今にもぬれた岩にしりもちをつきそうだ。その姿を見て、思わずぼくは声をかけていた。

「この杖、使いますか。」

と言ったら、おばあさんは少しおどろいたが、

「いいのかい。」

とぼくは聞かれたので、笑顔でうなずいた。

おばあさんは、にっこりして、

「ありがとう。」

と答えてくれた。悲しい気もしたけど、不安定だったおばあさんの足どりが少し力強くなって、ほっとした。それに、おばあさんが大事に杖を使ってくれている姿を見て、うれしかった。

その後も登り続けると、やっと頂上に着いた。頂上から見える景色はとても神秘的

で、ぼくはすがすがしい気持ちでいっぱいになった。

ちょっとした出来事でも、親切をすると、した方も受けた方もとても良い気持ちになるので、ぼくはこれからも親切をしていきたいと思った。助けを必要としている人に、すぐ手をさしのべられる人になりたい。

小さな親切みつけた

袋井市立袋井南小学校 五年

坂本 恋音

私は、夏休みに入り、お母さんの実家へ遊びに行きました。実家には、とても大きな犬がいます。名前はユウタ。オスの四才です。私は、ユウタが大好きです。

夕方になり、おばあちゃんと犬の散歩へ行くことになりました。ユウタは大きな犬なので、リードもとても太くて、じょうぶな物を使っています。赤いリードは、真っ黒いユウタにとても良く似合っています。おばあちゃんが空を見て、

「夕立がくるかな。」

と、言いました。私も空を見てみると、西の空に暗い雲が見えました。

「一応、かさを持って行こうね。」

と、おばあちゃんに言われて、私は二本のかさを持って出発しました。

お母さんの実家の方は、田んぼが広がっていて風がとても気もちがいいです。ユウタは元気に走って、急に右へ行ったり、左へ行ったりと大変です。草むらに顔をつっこんで、何かにおいをかいでるかと思えば、バッタが出て来てビックリしたり、ちょうちよを見つけておいかけたりして、本当にかわいいです。私の弟の様です。

しばらく歩いてみると、ポツポツと雨が降ってきました。夕立でした。

「かさ、持って来て良かったね。」

と、私が言うとおばあちゃんはにっこり笑いました。夕立がひどくなってきたので、家へもどる事にしました。少し早足で帰っていると、前から一人の女の人が歩いて来ました。すれちがうと、おなかが大きかったの、赤ちゃんがいるんだと思いました。

そのせいか、あまり早く歩けない感じでした。しかも、かさを持っていなく、ぬれていました。私が、

(かわいそう。)

と思ったしゅんかん、

「あらあら、ぬれちゃって大変。ぼろいか

さだけど良かったら使って。」

と、おばあちゃんがビニールのかさを、女の人に渡していました。女の人も声をかけられて、おどろいていましたが、

「ありがとうございます。」

と言って、かさをさして行きました。私は急いで、おばあちゃんをかさに入れました。

「おばあちゃん、やさしいね。」

と、私が言うとお、

「元気な赤ちゃんが産まれるといいね。」

と言って笑っていました。私は、そんなおばあちゃんが大好きです。おばあちゃんの親切をみて、私はうれしくて心がほっこりしました。私も、こまっっている人がいたら何かできるように、やさしい心を育てたいと思います。さりげなくできる親切の大切さを、おばあちゃんから教えてもらえて

良かったです。

へアドネーションをしたよ

磐田市立電洋北小学校 二年

田中 香琳

その日、二年間のばしていたかみの毛を切りました。

わたしは、ディズニーえいが『どうの上のラプンツェル』のプリンセスにあこがれて、ほいく園のころから、かみの毛をのばしていました。

だんだんのびてくると、三つあみや、あみこみができるようになりました。まい日、いろいろなかみがたにしてもらいました。へんしんしているみたいで楽しかったです。

一年生になったある日、びょう気がかみの毛がなくなってしまう人に、自分のかみの毛をのばして、きふをした男の子のお話をテレビで見ました。切ったかみの毛が、かつらになることをしりました。

わたしは、それからかみの毛をのばしました。そして、いつか、わたしもかみの毛をきふしたいと思いました。

がんばってのばして、二年生になったときには、おしりのちかくまで長くなりしました。おかあさんが、

「もう、きふできる長さになったから夏休みに切ろう。」

と言いました。夏休みがちかづくにつれて、ワクワクする気もちと、ドキドキする気もちでいっぱいになりました。

いよいよ、かみの毛を切る日になりました。まずシャンプーとドライヤーをしました。すると、サラサラのきれいなかみの毛になりました。それから、かみの毛をたばにしてゴムでしばります。八本のたばができあがりました。そして、たばのままかみを切りました。

「まるで、おすもうさんのだんばつしきみたいだね。」

とおかあさんが言いました。切ったかみの毛を見た時、

(こんなに長かったんだな。)

と思いました。切りおわると、かみの毛も気もちもスッキリしました。

わたしも、テレビで見た男の子のようにできるんだと、すこしびびくりしたけれど、とてもうれしい気もちでいっぱいでした。切ったかみの毛が、かつらになり、だれかがわらってすぐせるようになると思います。

夏休みのバスで

浜松市立伊佐見小学校 六年

古橋 美優

「この席、どうぞ。」

それは、妹とバスに乗っておばあちゃん家に向かっていたときだった。高校生ぐらいの女の人が、おばあさんに席をゆずった。「ありがとねえ。」

おばあさんは、にっこりほほ笑んでその席にすわった。そのときは、朝の八時ぐらいだったから、通きんする人、通学する人はいっぱいだった。そんな中、おばあさんが

乗ってきたところで、気付いてすぐゆずっていた。そのシーンを見て、心があたたかいと感じた。そのときから、「この席、どうぞ。」という言葉が頭からはなれない。

それからしばらくしたある日、またバスに乗った。

(もし、お年よりの方が乗ってきたら、席をゆずろう。)

と思った。そして、おばあさんが乗ってきた。ゆずろうと思った。が、声が出ない。おばあさんは席があいていないか、ときよろきよろしている。他にすわっている人は、何でゆずらなきやいけないんだ、自分もつかれているのに、というつめたい目でそばを向いている。そのとき、

「この席、どうぞ。」

と席をゆずった人がいた。

それから、席をゆずれなかったことをこうかいしている。雨雲が広がっている空は、まるで自分の心ようだった。そして、そんな自分を変えたいと思う。今度は自分が言う番だ。

「この席、どうぞ。」と。

親切っていいね

静岡市立田町小学校 五年

増田 優花

親切は、色々な場面でおこりますが、私は言葉が多いのではないかなと思います。

例えば、だれかがこまっついていて、

「大じょうぶ？」

と言ったり、だれかがボールを取ってくれて、

「ありがとう。」

と言ったり、またけんかをして、

「ごめんね。」

と言うのも親切だと思います。親切をする
と、されたほうもやったほうも、いい気持ち
になれます。

私は、学校で、

(親切っていいな。)

と思ったときがあります。その日は、教室
のまどをむむ員さんが直してくれました。
その後、クラス全員で、

「ありがとうございました。」

とよいにいきました。言った後、私はいい
気持ちになりました。また、不思議な気持
ちになりました。なぜ、不思議な気持ちに
なったのかというと、「ありがとうござい
ました。」この一言でまほうがかかったよ
うに、人と人がいい気持ちになったからで
す。たったこの一言で、人の気持ちがかわ
るということは、言葉で人をよろこばせた
り、悲しませたりできるということだと思
います。わたしはその日から、
(言葉で人をいっぱいよろこばせて、親切
をしよう。)

と思うようになりました。

その次の日のことです。友達といっしょ
に帰っていたら、荷物を重たそうに持って
いるおばあさんに会いました。勇気を出し
て、

「荷物、持ちましようか？」

と言いました。そうしたらおばあさんは、

「いいよ。ランドセルも持っているから大変
でしょ。気持ちだけはいただくよ。あ
りがとう。」

と言ってくれました。私が親切をしたのに、

おばあさんが逆に親切をしてくれて、でも、
私もおばあさんも、みんな笑顔になれまし
た。

親切をすることで、みんな笑顔になれる
ということが分かりました。また、親切を
したその日を今でもおぼえています。なぜ、
おぼえているのかは分かりませんが、たぶ
ん、今まであじわったことのないことを
やったからだと思います。なので私は、

(親切っていいね。)

と思いました。

ぼくのカギ

島田市立島田第一小学校 四年

松山 湊

夏休み直前の暑い日、学校が午前日課で早く終わったので、ぼくは友達と遊んでいました。

のどがかわいたので、ゆう便局前の自動販売機でジュースを買いました。ぼくはともものどがかわいていたので、急いで飲みました。

急いでいたので、家のカギを側こうに落としてしまいました。側こうはとても重くて持ちあがりません。ぼくは本当に困ってしまいました。

両親は仕事で家にいないし、電話番号も家に入らないとわかりません。思い切って、ゆう便局の人に話してみました。でも、お客さんがいて、

「今ほみてあげられない。」
と言われて悲しかったです。道路工事の人もいたけれど、忙しそうに話しかけること

ができませんでした。

（お姉ちゃんが帰ってくるまで家に入れな
いな。「カギをなくした」って言ったら
ママに怒られるな。どうしよう……。）
とても不安になりました。

ふと、落とし物を拾った時に交番へとど
けることを思い出して、おまわりさんなら
話をきいてくれると思い、交番へ行きまし
た。

おまわりさんはすぐに一緒にきてくれ
て、

「これじゃとれないね。」

と言って、どこかへ電話してくれました。
そこは市役所だったので。

市役所の人を待ってる間、とても長く感
じました。ゆうびん局の人も出てきて、

「さっきはごめんね。どう？」

と声をかけてくれました。みんなが助けて
くれようとしているのがわかりました。

市役所の人が必要なペンチみたいな工具
で、側こうのフタをとってくれました。

ぼくは市役所の人に何度も、

「ありがとうございます。」

と言いました。

カギを探している時に、たくさんの人が
立ちどまって一緒に探してくれました。

ぼくがもし、ただ通りかかったら、たぶ
ん何も言わずに通り過ぎてしまうかもしれ
ないです。

もし、次にだれか困ってる人を見かけたら、
勇気を出して声をかけられるといいな
と思います。



ぼくもなりたいな

静岡市立長田東小学校 二年

室伏 大我

「かつこいいな。ぼくも、こういうことができるようになりたい！」

ぼくには、こんな人になりたいと思う人がいます。それは、三つ年上のおにいちゃんです。おにいちゃんは、いつもぼくにいたずらしてくるし、ぼくにべんきょうを教えてくれるけど、すぐにおこります。だから、いやだなんて思うことがあります。でも、おにいちゃんのかつこいいすがたを見た日から、ぼくのおにいちゃんへの気もちがかわりました。

かぞくで、スーパーにいったときの話です。その日は、とてもレジがこんでいました。ゆっくりゆっくり、ぼくたちのお会けいのばんがちかづいてきたときでした。となりのレジで、お会けいをしようとしていたおじいさんが、おさいふをおとしてしまいました。

(あつ、おじいさん、お金をおとしちゃった。)

と思っていると、サッとおにいちゃんが、お金をひろってあげました。

「だいじょうぶですか？はい、これだけひろえましたよ。」

おにいちゃんは、その声をかけて、おじいさんにお金をわたしていました。ほかにも、お金がちらばったのを見ていた人がいるのに、おにいちゃんしかうごいていませんでした。ぼくは、おにいちゃんが、かつこよくキラキラして見えました。

(なんで、すぐうごけたのかな？)
とあって、ぼくはおにいちゃんに聞いてみました。

「目の前で、こまっている人を見たら体がうごいたんだ。」

と言っていました。なにも考えないで、サッとごいたおにいちゃんは、このときスーパーにいた人の中で、一ばんかつこよかったです。

この日のほかにも、おとうさんといっしょに、車いすの人に手をかしてあげたり、

いつもぼくが見ているおにいちゃんと、ちがうところを見て、かつこいいな！ぼくも、サッとごけるようになりたいな。と思うようになりました。ぼくにもできるかな……。とあっていたときの話です。おかあさんと、おかいものに行って、かつたものをふくろにつめていたときです。にもつが多くて、かいものかごをもどすのがたいへんな人がいました。だから、ぼくがかたづけあげたことがあります。たいへんそうだったからおてつだいをしただけで、なにか言っただけじゃなかったの

に、
「たすかったよ。ありがとう。」
と言われて、ぼくはとってもうれしくなりました。

おにいちゃんも、ぼくと同じように思ったりしているのかな？だれかのやくにたえた気もちを、これからもわすれないようにしていきたいです。

小さくない

学校法人星美学園静岡サレジオ小学校 三年

望月 直輝

楽しかったよ。この前行った、東京ディズニーシー。ならばなくてもあそべる。楽しかった。ぼくは、ころちゃんがいってラッキーと思った。

ホテルも楽しかった。

親切が、大きな親切がたくさんあった。

兄のころちゃんは、今、口もきけない。手も足も、自力では動かせない。こきゅうきもつけている。三兄弟の一番上だ。そんなころちゃんを、ぼくらは好きだ。本名はこうき、光希と書く。

ころちゃんは、きん肉がない。もしかすると、少しだけあるかもしれない。さわってみたら、なんとなくあるような気がしたからだ。

ころちゃんの口は細長い形だ。そこが、兄のチャームポイントだ。

学校にむかえにきてくれるママ。たまに、

兄をつれてくる。どうきゅうせいのおまさんや、たいがくんとかが、かわいがってくれる。うれしい。

「どうしてねてるの？」

「どうしてこんなにやせてるの？」

などのしつもんが出る。小さな親切。興味をもってくれた親切。

兄をしせつや学校にむかえに行ったときに、ぼくが兄の居る部屋のドアを開けたり、兄がそこで作った物を見たりすると、すごく楽しくなる。

楽しそう。

プールで遊んだり、やさいを育てたりして、ナス、キュウリ、トマトを持って帰ってくる。この前、お茶っ葉をつんできた。

プールや、やさい育ては、ぼくもやったけど、茶つみは、まだやっていないからうらやましい。

でもうれしい。

それにわくわくする。

兄は、おとまりもする。

兄がとまるところは少しくさい。

父が仕事でオーストラリアに行っている

時、大分のおばあちゃんのみちちゃんがきて、兄の世話をてつだってくれる。ころちゃんの世話は、見ていると楽しそうやってみたら楽しい。もつと世話したいな。

夏休み。この前、ヘルパーさんが家のふろに兄を入れてあげてた。楽しそうだった。

ぼくは、「おもしろそう。ぼくもいつかやってみたいな。」と思った。

ぼくは、「家にしょうがいじがいて、よかった。」と思った。りゆうは、いなかったら、しょうがいじが少しいつか、けっこうわいと思う。いたから、しょうがいじとむき合うことができる、と思う。しかも、しょうがいじのくらしがわかるようになる。

兄は特別だ。

しょうがいじだから、あった親切。